



千葉市立貝塚中学校 学校だより

校訓： 自主・創造・練磨

第13号

令和3年10月13日発行

千葉市立貝塚中学校

TEL231-7077

◆子どもは失敗しながら成長するものです◆

校長 北島 啓行

子どもは成長過程の中で、様々な失敗をして成長していきます。失敗や指導されたことを学び、同じことを繰り返さないように学習していきます。それを見守るのが大人です。

コロナ禍で、先行き不透明な社会情勢ですが、大人の我々が少しでもゆとりをもって、子どもに接することが大切かと思えます。

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ

優しく思いやりをもって育てれば、子どもはやさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世は良いところだと思えるようになる



『子どもが育つ魔法の言葉』から ドロシー・ロー・ノルト著より

◆後期スタートにあたり◆

後期スタートにあたり、各学年の代表生徒より、意気込みを寄せてもらいました。

私は後期に向けて、自分自身を見つめ直したいと思います。今まで学年生徒会として、良い意見を多く出している仲間ばかり頼ってしまい、私自身は何もすることができませんでした。前期最後の反省でも、より良い意見を考えることができませんでした。そのため、後期はまた新たな委員会で、様々な経験をしたいと思います。自ら意見が出せるように、委員会の様子を見たり、多くの人と触れ合い、知識や見識を深めていきたいと思います。リーダーらしく、みんなに頼られるような人になって、いつか学級や学年のリーダーとして活躍できたらと思います。後期、私は生活面で、日常生活で当たり前のことや、学習面でテストに向けて家庭学習をすすんでやるなど、やるべきことをきちんとできる学年にしたいと思います。

1 学年代表生徒

楽しく始まった2年目の学校生活も、もう半年が過ぎました。この半年の中で、私が成長したなと感じたことがあります。それは、先輩としての責任感をもつことができたということです。2年生になって、初めて後輩ができ、これからは1年生を引っ張っていく立場なのだと改めて実感しました。3年生の先輩を見習いながら、2年生としてできることを進んで行うことができたと思います。後期からは本格的に2年生が学校の中心となっていきます。部活動や専門委員会など、学校全体を引っ張っていく立場になりますが、先輩方の思いをしっかりと受け継ぎ、2学年全体が協力してまとまる必要があります。それぞれが活動の中心であるという自覚をもち、いつ、どこで、自分は何をすべきかをよく考えながら、残りの半年を過ごしていきたいです。そして、半年後には、最高学年として自信をもってスタートできるよう、個人と全体、双方の意識をもって様々な活動に積極的に取り組んでいきたいと思います。

2 学年代表生徒

後期に向けて、私たち3年生が力を入れていきたいことが2つあります。1つ目は、学習環境づくりです。これから、本格的に受験に向けての生活が始まります。そこで、3年生の皆さん！！ もう一度、自分の瀬克態度を見直してみてください。2分前着席、授業態度、服装など、ちょっとしたことを完璧にできるようにしましょう。日々の積み重ねが受験に役立つとともに、基本的なルールを守ることで、受験への意識が高まり、良い学習環境が作れると思います。2つ目は日々の生活を大切に過ごすことです。本来ならばあったはずの学校行事が新型コロナウイルス感染症の影響でなくなり、残念だとは思いますが、しかしここであきらめるのではなく、「今だからできること、私たちにしかできないこと」を考え、実行し、中学校生活最高の思い出を3年生全体で協力してつくっていきましょう。

3 学年代表生徒